

お江戸コリアーず 練習再開 会場借りて実地検証

緊急事態宣言が解除され、都道府県間の移動制限もなくなり、環境の整った合唱団では練習が再開され始めました。

お江戸コリアーずでは、3 か月ぶりの練習再開にあたりトーキョーコンサーツ・ラボを借りて実地検証を行いました。その結果、次のような内容を確認しそれをガイドラインにまとめるとしていきます。

- 練習会場の要請事項は厳守する/体調管理を確実なものとし、少しでも不安があれば練習を休む/基礎疾患のある方、高齢者と同居されている方は練習を休む。
- 座席は一定間隔を取り、密にならないように注意する/入場時には手洗いうがい、消毒・検温をする/消毒用品、非接触体温計、パルスオキシメータ(皮膚を通して動脈血酸素飽和度と脈拍数を測定するための装置)を団で購入/練習前後で椅子、ドアなど手を触れる箇所を消毒する/現金のやり取りは避けペイメントサービスを導入する。
- 指揮者・ピアニストの前に飛沫防止の仕切りを用意する(透明で幅が一間ほどありそうな大きなビニールカーテンを指揮者の前に立てる)/参加者を事前に把握し、制限人数を超えるようなら分割して練習を実施する/練習後の飲み会は当面取りやめる(‘;’)など、独自のガイドラインを策定して練習を再開する予定としています。

お江戸コラとしては、今回の策が完全とは言い切れない、今後状況に応じて改善してゆくが、まずは活動を続ける方策を模索したいとしています。また、今回の実地検証では換気や空調のことは触れられていませんでした。

非接触体温計やパルスオキシメータまで購入するという思い切った方法はどの団でも採用できるものではないと思います。そして、どこまでやっても完全とはならないところが新型コロナウイルスの手ごわいところです。

※トーキョーコンサーツ・ラボは、広さ190㎡、座席数120席、室内楽のコンサートやパフォーマンスアート、オーケストラ・合唱・ダンスなどに利用されています。

換気できない部屋に紫外線殺菌装置を

医薬品などの無菌製品の製造に使われるクリーンルームにはふつう紫外線殺菌装置が取り付けられています。もちろん

直接人体に当たらないよう照射角度などを調節し、紫外線ランプの定期点検も行っています。クリーンゾーンを維持するには必須の装置です。

今、合唱団などがよく使用する公共施設はふつうの建物です。すのでエアコンくらいは付いていますが、換気という点についてはあまり考慮されていないと思います。空調を利かせるには外気をあまり採り入れないほうが効率がよいわけですから仕方がありません。

しかし、これから長く続くウィズ・コロナ時代に向けて、一年中窓を開け放して使えというのは現実的ではありません。そうではなく、なんとか新型コロナウイルスを退治する方法を考えたいものです。

そこで、後付けで紫外線殺菌装置を取り付けることを提案します。既存の施設で換気が十分でない場合、建物の空調設備を変更するのはコスト面からみても相当ハードルが高い話となりますので、後からでも設置できるこの装置は威力を発揮するはずです。装置の価格は決して安いとはいえませんが、ここはという特別な部屋に設置してはどうでしょうか。

新型コロナウイルスは、空気中に3時間生き続けるという研究発表もあります。エアロゾル感染対策には、空気中のウイルスを殺菌できる紫外線が有効です。用途に応じて様々な製品が揃っています。

シニア合唱団員をどう救うか！

若い世代はPCやスマホに慣れているでしょうが、多くのシニア層はなかなかそうはいきません。Youtubeすら思うように見られないでしょうし、オンラインレッスンに至ってはかなりハードルが高そうです。現時点では、練習会場に皆が集まることすら叶わない地域もあります。例えば、名古屋市の公共施設では8月末まで合唱団の利用はできないといえます。

また、オンラインコーラスなどの試みが全国で行われていますが、それもシニア層には無縁のままに違いありません。いつになったら自由な合唱活動が再開できるか分からない現在、このままではシニアの方々はいつまでも取り残されてしまいます。シニア向けのスマホやタブレット導入講座を求める声も上がっています。これは合唱に限った話ではなく広くインフラとしても望まれていることです。

この問題は極めて個人的なことではありますが、スマホやタブレットあるいはPCに親しむ機会がなかった多くのシニア層を対象にした啓蒙プログラムが出てくることを期待します。